

## 令和4年度 第1回 三朝町総合教育会議 会議録

開 会 日	令和4年7月29日(金)
開 催 場 所	三朝町役場2階 第2会議室
出 席 者	松浦弘幸町長、西田寛司教育長 塩谷俊樹教育委員、石田仁樹教育委員、加藤るみこ教育委員、村岡麻梨教育委員
欠 席 者	な し
説明等の出席者	赤坂副町長、青木地域振興監、大村総務課長、山口町民課長、村上企画課長、山中教育総務課長、山本社会教育課長、小谷課長補佐兼指導主事、福田教育総務係長
協 議 事 項	(1) 小中連携の取り組みについて
報 告 事 項	(1) 部活動の地域移行について
そ の 他	な し

### 会 議 の 内 容

- 1 開 会  
事務局  
午前10時28分  
・ 令和4年度第1回三朝町総合教育会議を開会する。
- 2 あいさつ  
町長  
・ コロナが急拡大をしており、今年度少し落ち着くかと思っていたが、大波小波の状況。学校、地域も大変な状況だが、皆さんに協力いただいて乗り切っていたらと思っている。  
・ 今日委員外で副町長以下関係課長も出席させていただき、意見交換する中でオブザーバーとして意見を述べることができたらと思っている。  
教育長  
・ 新型コロナがさらに拡大してきており、学校でも感染者が出ているが、夏休みを迎えて広がりを学校内では抑えることができるかなと感じている。知事会ではインフルエンザ級にするという話も出ており、もう少ししのいでいかないといけないという気持ちでいる。  
・ OECDの調査より、日本の学校教育が危機を迎えているという考え方から、「令和の日本型学校教育」と銘打って学校教育の改革がなされていることに加え、コロナによりICTが前倒しされ、教育の方法論が変化してきている。  
・ 小中連携に関し、一定規模ということを文科省は言っているが、小規模の強みを発揮する教育を保小中で強みにして、三朝町で人材を育成していくことが大きな課題だと思っており、地域や家庭の協力が大切だと思っている。
- 3 会議録署名委員  
の指名  
・ 本日の会議録署名委員は、石田委員と加藤委員を指名する。

### 4 協議事項

- 事務局 (1) 小中連携の取り組みについて  
(資料により説明)
- ・ 三朝町ならではの特色ある小中連携、保小中連携を行うことを目指しており、現在行っている連携、これから力を入れていく連携も含まれている。
  - ・ 今後も皆さまにご意見等をいただきながら、効果的な小中連携を行ってきたいと教育委員会としては考えている。
- 事務局 (資料により説明)
- ・ 4つの柱を基に、小中学校の管理職等を含めた検討会でそれぞれ具体的施策を検討させていただいた。
  - ・ 今年度初めて取り組む実施計画となるため、各校で実施していただきながら、年度末に修正を加えて来年度にまたブラッシュアップしたものを実施していく。
  - ・ 三朝町のように小学校1年生から中学校3年生まで系統立てたふるさとキャリア教育の実施計画を作成している市町村はなく、全県のふるさとキャリア教育連絡協議会の中で、県から非常に興味を持ってもらっており、他市町にもこのような取り組みを進めてもらいたいということで紹介してもらったところ。
  - ・ ICTとミースプログラムについても、それぞれの担当者会を、ICTは毎月、ミースプログラムは年2回計画しており、その中でより学びが深まるようなカリキュラムに変更していこうと考えているところ。
- 町長
- ・ 毎年検証をしながら、必要な事項は改正していこうという計画書の位置付けか。
- 事務局
- ・ ふるさとキャリア教育の実施計画については、三朝町の文化財が毎年変わるものではないため、今年度修正したものが来年度以降残っていくと思っている。
  - ・ ICTとミースプログラムについては、それぞれ先生方のICT活用のスキル、英語活用のスキルも年々高まっていくものと考え、年次的に更新がなされていくものと考えている。
- 町長
- ・ 11ページまでにあるものは、ある面で毎年検証というわけではなく、これと12ページ以降のところの組み立てがどうなるのかと思う。
- 事務局
- ・ 最初の方についてもご意見をいただきながら、変えるべきところは変えていくものと思っている。
  - ・ 16ページに保育園のことも書いてあるが、途中で保育園との連携のことももう少し盛り込んだ方がいいというご意見もいただいております、年次的に変更をかけていきたいと考えている。
- 町長
- ・ 毎年、教育委員会定例会の中で、年度の検証と新年度に向けての改正をしていくという捉え方でよいか。
- 教育委員
- ・ 小中連携の捉えとは、三朝の学校に行きたいと多くの人が思える学校をつくっていかないといけないことだと思っている。
  - ・ 町の特色を生かした学校づくりが必要であり、英語、ICTもしっかりやっていく、これをグローバルと捉えるのであれば、その反対はローカルだと

いうことも書いてあるので、ふるさとキャリア教育を見直しを含めて進めていくことで、町外他地域からも興味を持ってもらって、三朝に住んでみたいと思ってもらえるような学校をつくっていけるよう一層進めていく必要がある。

- ・ 一方、小中連携を進めることで中1ギャップは少なくなると思うが、中学校から高校に行く子どもたちにとっては高1ギャップというものができてくる心配があるので、そのケアやフォローの対策が必要。
- 教育委員
  - ・ 「三朝町の未来を語る会」で出た意見について、町としてどのように生徒たちへ返したのか。
  - ・ 各課として、未来を語る会でどのようなことができるというビジョンを持っているのか。
- 町長
  - ・ 未来を語る会は一昨年度初めて実施したと記憶しており、町政の説明をした後、ワークショップで生徒から意見をもらったが、返すような内容ではなかったと記憶している。
  - ・ 加藤委員が言われたような内容に持っていくのが望ましいと思っており、今年度はまた違うテーマで行われる予定となっているようなので、その中で返していくことはきちっと返していきたいと思っている。
- 副町長
  - ・ 未来を語る会としてはまだ1回、その前は「子ども夢議会」という形でやってきており、その時には一般質問という形で受け答えをしていたので、本場の議会と同じように約束事項は進捗管理をしていた。
  - ・ 未来を語る会は約束事項という形ではなく、総評という形で伝えていたので返す形にまではなっていない。こういうふうにかかされているというように示せたらと思うので、形を工夫したい。
- 町長
  - ・ そういう会とは別に、学校へ給食を食べに行った際、15分ほど子どもたちと意見交換をしており、積極的に通学路のことや、暑さ対策の話も出ていた。それらは役場に帰ってから担当課へ伝えるよう心掛けている。
  - ・ 皆さんで事前学習をしてまとめる、要望ではないが考えを発表する会はいい機会であり、私たちも返せるような内容を作る、そういう交流は大事だと思っている。
- 教育委員
  - ・ 3年生という受験を控えた時期に催す意味はそこにあると思っており、子どもたちが意見を言ったことが、大人は言わせっぱなしで聞いてくれないということだと、次の高校生のボランティア活動とか、町に対する活動への前向きな姿勢が生まれないと思うので、そこは丁寧にしてほしい。
  - ・ 中学校長にもお願いしたいと思っているが、時期はこれでいいのかとか、返し方とか、できるできないは別として誠実な答えを返してほしいと思う。そこが三朝町に残ろうとか、三朝町のために頑張ろうというところにつながっていくと思う。
- 町長
  - ・ 毎回、誠実に回答はしているつもりであり、できないことをできるということもしないし、難しいことはなぜ難しいかということも言うようにしている。
  - ・ 議会であろうが、子どもたちであろうが、同じことでも視点はそれぞれ違

うところにあるので、そういうところは大事だと感じている。

## 5 報告事項

事務局

### (1) 部活動の地域移行について

(資料により説明)

- ・ 現在、中学校の部活動において、教師の負担や、少子化によるチームの編成等、持続可能性という面で厳しさを増してきている。
- ・ 文科省から、休日の部活動について、運動部から段階的に地域移行していくことを基本とし、目標時期を令和5年度の開始から3年後の令和7年度末として行うよう通知があり、教育委員会では中部市町や県と協議を行っているところ。

事務局

(資料により説明)

- ・ このほど取りまとめられた提言によると、ここ30年間で中学校生徒数は4割減少しているのに、1校あたりの部活動は11で増減がほとんどないことから、1つの部における参加生徒数はかなり減少している。加えて、参加率も減少傾向にある。
- ・ 教員が休日の部活動に関わる時間が10年前に比べて約2倍になっている。
- ・ 保護者へのアンケート調査結果については、児童生徒への調査結果と同じような傾向となっており、地域移行、受益者負担とも賛成とする意見が多かった。また、活動方針については楽しみたいという意見と競技志向の意見が同程度となった。

町長

- ・ 生涯スポーツの観点で、部活動をどうするか、スポ少をどうするかという全体的なところで考えていく必要があると思うが、いきなり地域移行をするという視点で進めてしまうと幅が狭くなり、どこかの地域へというようなことにシフトしがちな先入観もあるので、全体的なスポーツ環境ということを考えていく必要があると思う。
- ・ 指導者の確保が大事であり、教員に委ねてきた結果、指導者が育たないままとなっているので、いろいろな連携が必要になってくると思う。
- ・ 部活動には文化部もあり、地域の活動にも文化活動がある。文科省でも文化部活動について議論をし始めたと聞いているので、そのうち運動部活動に追いついてくるのではないかという気がしている。

教育長

- ・ スポーツ庁が出した提言について小谷指導主事が説明したが、7月末から8月の頭にかけて文化庁が文化部活動に係る提言を出されるので、それを総合して中学校の部活動と高校の部活動について考えることになろうかと思う。

教育委員

- ・ イメージが先行して、中部全体でやろうかということになればみんな倉吉に行ってしまうのではないかと感じてしまう。三朝でできることは三朝で、指導者がいれば整備して、この競技はどういう形でやっていくという具体的なところが出てくればもう少しわかりやすくなっていくのではないか。
- ・ いずれにしても先生方の負担は軽減していかないといけないし、国の方針も出ているのでその方向に進んでいかないといけないと思うが、全体の理解

が進んでいないと感じる。

教育委員

- ・ 小中9年間の連携を頭に置かないといけない。
- ・ 運動や文化の部活動をして、将来プロを目指す子もいるだろうし、一人ひとりが自分の成長のためにしていくことと思うが、地域にすぐ移行することを考えるより、小中9年間でどういう人間を育てていくのか、育てていってほしいのかということも考えながら、運動部、文化部を小中学校でどう考えなければいけないのかを考える方がいいと思う。
- ・ 国が考える方向性としては出ているが、各県で実情が違うので、実情に合わせて地域ごとに考えればいいのであって、今すぐ地域移行することを考えることはない。

教育委員

事務局

- ・ 国はスポーツ庁と文化庁が中心となってやる。県は何課が管轄しているか。
- ・ 運動部活動を所管している体育保健課、文化部活動を所管している小中学校課について、県も国の丸投げという捉えをしており、具体的に県で何ができるかという検討ができていない。
- ・ 国の提言の中では、指導者の人材バンクを県が整備すべきだということを示されているが、競技団体に確認したところ、派遣できるのは陸上と水泳だけで、他の競技は派遣が難しいという回答があった。

教育委員

事務局

教育委員

- ・ 町としては、学校に関係するということで小谷指導主事がやっているということで、今度地域移行となった場合は、社会教育がすることになるのか。
- ・ 今すでに社会教育課と一緒にやっている。
- ・ 地域移行となった場合はそれで回るのかということがすごく気になっている。教員の負担軽減のために、町の担当課が負担を負って、職員が疲弊していくということはないだろうかと危惧している。
- ・ 地域移行となった時に、町としてどのようなビジョンを持っているか。

町長

- ・ 地方行政と教育行政の区分があり、その線引きが非常に難しい。
- ・ ただ、子どもたちの環境、地域の環境からすると、その線引きはかえってよくないと思う。小さい町の中なら町長部局だろうが教育委員会部局だろうが、事務分掌の所管業務はあるとしても連携は取りやすいので、線は引きながらも連携はしていく必要がある。
- ・ 教員が働き方改革で時間外が減ってくるのも大事なことだし、一般の社会の中での働き方改革で職員の過剰労働を減らしていくのも同じこと。そこで空いた時間をスポーツ指導者として人材を生かしていくのは、教員だけの問題ではないので、これを町として考えていく。

教育委員

- ・ 社会教育の中に社会体育を位置付けるとか、そういう安易な考え方はしてほしくないと思っており、教員の時間外が減って家庭のためになったり社会のためになったりするのはいいことだが、そのことで町の職員が疲弊して、退職したり心身を病んでしまったりすることが絶対にならないようにしてほしい。
- ・ このことをしようと思うと、例えば北栄町や静岡県掛川市の取り組みのように、社会体育と総合型のタイアップなどを参考にしていってほしい。そうすると、少なくとも地域総合型担当として1人、部活動地域移行担当者とし

- て1人、施設管理担当者として1人、最低3人くらい人員が必要。
- 町長
- ・ 大事なものは、職員の数は減ってきていて、やらないといけないことは増えてきているので、町の中でコンパクトな形を作っていくといけないと思っている。
  - ・ 役場の中で職員が疲弊してきており、教育委員会だけの問題ではなく、各課ごとにスタッフが足りないところはたくさんあり、限られた定数の中で連携していくというのはどこも同じことだと思っている。
- 教育委員
- ・ 教育委員会だけが疲弊しているということではなく、全職員の健康や安全を守ってもらって、回して行ってほしいと思っている。
  - ・ 町職員が元気でないと、町は潤っていかないし、町民と気持ちよく接することもできない。
- 教育委員
- ・ 一人ひとりが自分のやりたいスポーツができる環境を整えてもらいたいということと、地域移行後の交通手段も一緒に考えていてもらいたい。
- 副町長
- ・ アンケートが休日のみを対象としており、平日を含めた全体的な構想を考えているかが疑問。拙速に考えず、全体としてどうあるべきかという体制をしっかりと整備したうえで考えてほしい。
- 教育長
- ・ 働き方改革の中で、部活動は教員の仕事ではないということからスタートし、それを地域に移行させるのが着地点だが、その過渡期に休日だけでも教員を働かせないため、外部指導者等を利用して移行してきている。
  - ・ 鳥取県は休日における部活動の地域移行を早急にしたいということで、三朝町においてそれができるかどうか、保護者の皆さんはどう思っているかを調べるためのアンケートが今回の趣旨。
  - ・ 県の通知も最近ようやく体育保健課と小中学校課が一本化されてきており、横連携ができてきたように感じる。
  - ・ 休日における地域移行の中で、市町の単位を超えた部の編成ができないものかとか、主となる学校に集まるとか、その時の移動手段はどうするかとか、現在協議されており、これから動きが出てくるものと思われる。
- 教育委員
- ・ 「本校における部活動」という考え方に縛られ過ぎているということもある。大きな括りでクラブチームに参加することを部活動と認める考え方もあると思う。
  - ・ 例えば学校の部活動に希望する種目がないから、陸上部に籍を置いて土日だけはクラブチームに行くというのは、いろんな面で支障がある場合もある。部活動の目的は何だろうと感じる。
- 教育委員
- ・ 部活動に入らない子もいっぱい出てくると思うので、それをどうしていくかということも考えていかないといけない。
- 町長
- ・ 学びと育ちを町の中でどうしていくかということだと思う。
  - ・ これから進捗を確認しながら、学校の中、生涯スポーツの中で検討していただけたらと思う。
- 教育長
- ・ 学習指導要領に部活動が定義付けられていることがこの問題の一番の根っこ。学校教育の一環だと書いてあるのに部活動を止めようとしているので、学習指導要領の修正を国がしてくれないとなかなかできないという問題が

潜んでいる。

- ・ フレックスタイムのようなものが導入されれば、地域でのクラブ活動も成立してくるかもしれないという可能性もあり、人生観に関わってくるものだと思う。

町長

- ・ 広い視点での話だったので、ずれている部分はあるかも知れないが、絞っていく中で町としての方向性を出していけたらと思う。
- ・ 総合教育会議のあり方について、国が示しているものでもあるが、構成員は町長と教育委員であり、会の進行をしながら意見を述べるのも難しい面がある。町のやり方としてやりやすい形を検討できればと思う。

教育長

- ・ そもそもは、首長の考え方を教育委員に伝え、教育行政に反映させようというのが主旨だが、教育委員会が事務局を持つようになってしまう。

町長

- ・ 今日の会が悪いということではなく、三朝町ならではの会議の持ち方というのを考えてみてはどうかという思い。

## 5 閉 会

事務局

それでは、以上をもって令和4年度第1回三朝町総合教育会議を閉会する。

午前 11 時 50 分